

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年4月18日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4672200112
法人名	有限会社 童里夢
事業所名	グループホーム どりーむ
所在地	鹿児島県指宿市開聞十町5210番地4 (電話) 0993-32-0313
自己評価作成日	平成27年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設から10年がたち、職員の6割が5年以上の勤務となっていて、チームワークの良くとれた働きやすい職場となっています。ホーム内も、穏やかな雰囲気があり、御利用の方々とはもちろんのこと、ご家族や面会の方々とのコミュニケーションにも努め、面会に来やすいとの言葉を頂いています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL <http://www kaigokouhyou jp/kaigosip/Top do?PCD=46>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成27年3月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 当事業所は、日常的に近隣住民が立ち寄り一緒にお茶を飲んだり、認知症についての相談を受けたりしている。野菜の差し入れなどもあり、地域との良好な関係が築かれている。
- 災害対策として、定期的な避難訓練と地区の自衛消防隊との合同訓練も実施するなど地域との協力体制ができている。
- 一人ひとりの排泄パターンや習慣から、おむつ減らしに取り組んでいる。改善がみられた事例がある。
- 職員は勤務年数が長く離職者が少ない。職員間のコミュニケーションも図られ、利用者と共に明るく楽しい雰囲気を保ちながら生活している。
- 代表者や管理者は職員育成に力を入れており、職員の資質向上を目指し、積極的に研修等への参加や資格取得に向けた支援を行っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎月の職員会議に於いて、唱和することで、その意義を確認し合っている。	理念は職員全員で見直しを行い、事業所内に掲示している。ミーティングや職員会議時に唱和し、理念をもとに話し合い、具体的なケアについて意見の統一を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員は、地域の方で結成された自衛消防団との親睦会で、つながりが広がってきてている。利用者へは、散歩や地元の方の墓参りの支援や病院受診の際に、地域の方との会話ができるように支援している。	町内会に加入し、地域の情報や協力体制ができる。地域行事や合同避難訓練など積極的に参加し、散歩や買物の際には挨拶や会話を交わしたり、野菜などの差し入れもある。自衛消防団の立ち寄りもあり、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域の方からの、介護相談を受けて、施設や在宅介護サービスの紹介を行うなど、事業所の力を生かせるように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議に於いて、利用者の生活状況や支援内容などを報告し、アドバイスや地域の情報などを頂き、サービス向上に生かしている。	会議は行政職員や自治会長・家族代表の参加を得て定期的に開催している。事業所の状況や外部評価の報告を行い、参加者から多くの助言や提案があり、居室から屋外への避難用スロープの設置などサービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議に於いての報告の他、地域の方からの要望や相談があった場合は、積極的に伝え、行政の意見やアドバイスをいただいている。	市担当者とは日頃から、事業所の実情や取り組みについて情報を交換してアドバイスを貰っている。市主催の研修会にも積極的に参加している。お互いに連携がとれ協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	利用者の精神状態において、やむを得ず、玄関の施錠をしなくてはならない時でも、必要最小限の時間としている。	身体拘束廃止委員会が設置され、事例検討や勉強会を実施し、職員の共有認識を図り、拘束をしないケアを実践している。昼間の玄関は施錠しない方針であるが、利用者の状況により短時間の玄関施錠を行うこともあり、職員間の連携で安全な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	利用者の訴えに耳を傾けることはもちろん、入浴時などの機会に外傷の有無を確認し報告、記録し皆で検討し対処している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者が以前に学んだことはあるが、これまでに必要と思われるケースはなかった。必要に応じて、活用したいと考える。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の改定は、利用者等の承諾や届け出はもちろん、締結と解約の際も、家族等の不安や疑問への十分な説明に努めている。			
10 6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者との日々のコミュニケーションに努め、家族とも面会の際に、意見や要望がないか聴き、介護や運営に反映できるように努めている。	日頃から何でも言ってもらえる雰囲気作りに留意している。利用者からは日々の関わりの中で、家族からは面会や運営推進会議・電話・便り等で、意見を出してもらう工夫をしている。出された意見や要望等は職員で話し合い反映させている。		
11 7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は、職員との日々の会話の中で、意見や提案を聴き、代表者に繋ぐことで、運営に反映してもらっている。	管理者は日頃から職員とのコミュニケーションを図り、申し込みやミーティング時に職員の意見や要望を聞く機会を設けており、白板に表示して共有化を図っている。代表者にも報告して運営に反映させている。相談事は代表者が個別に対応し、適切にアドバイスをしている。		
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は、給与や勤務形態・条件においては、職員個々と話し、調整している。又、職員の努力や実績は、管理者からの情報や実際の勤務態度を観察し、把握している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	研修案内を見て職員の希望や必要性に合わせた研修会への参加を進め、研修手当の支給もされている。		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	県・薩摩半島支部や指宿地区の協議会に加盟し、研修会や役員活動に参加することで、交流に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込みがあり、入所される前に面会に行き、本人の要望を聴き、可能なら見学の支援もして、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とは、申し込み時や待機中の追跡調査の際に、丁寧に対応し不安や要望に応えるとともに、関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申込みや相談の際は、ケアマネ資格を有する、代表や管理者が中心に対応し、その時必要な支援の見極めや、他のサービスの紹介や相談方法などを説明している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事作業や昼食・散歩などは、世間話をしながら楽しく一緒にを行うことで、共に生活する者同士としての関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会前後には、家族と職員が気さくに会話している姿がよく見られる。家族は、必要な時には、介護や病院受診なども、協力して下さり、一緒に利用者を支えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の方には、墓参りや散歩を進め、地域の方々と会えるよう努めている。また、病院受診では、知り合いの方があれば間を取り持ち、馴染みの関係が途切れないように努めている。	地域の友人や知人の訪問の際にはお茶を出すなど、関係が途切れないと働きかけている。家族の協力も得ながら、馴染みの理・美容院の利用や外出・墓参・自宅訪問などを支援し、一人ひとりが大切にしていることを尊重している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支ええるような支援に努めている	知り合い関係や、相性を考慮した座席配置を行い、利用者同士の会話や馴染みの関係の支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院・他の施設への移動などの退所後も、入所中のアルバムを持って面会を行ったり、家族から経過を伺ったりするなど、フォローに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>一人ひとりの思いや意向の情報を、毎朝のミーティングや、月1回の職員会議などで共有し、その都度検討して支援している。</p>	<p>利用者が興味を示す畠の手入れや干し大根づくり・編み物などは会話が弾み、一人ひとりの思いや意向を把握できる機会になっている。意思疎通が困難な場合は家族からの情報を得て、幅広くその人らしい生活ができるように支援している。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入所時の情報収集のほか、職員それぞれが生活の中で得た情報を共有して、これまでの暮らしの把握に努めている。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>毎朝のミーティングに於いて、利用者の現状の把握に努めるとともに、月1回の職員会議では職員が受け持ちの方の問題提議を行って、把握に努めている。</p>		
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本人とは、日々の生活の中で意見を聞き、家族とは面会時に現状報告し要望を聞いている。定期の病院受診では、主治医や看護師と意見交換して介護計画への反映に努めている。</p>	<p>本人や家族の意向を確認し、主治医や看護師の助言も取り入れ担当者会議で話し合い、個々に応じた介護計画を作成している。1ヶ月毎にモニタリングを実施し、6ヶ月毎に見直しを行い、状況が変化した時はその都度、現状に即した介護計画を作成している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別的な日々の記録のほか、毎月のミーティングでは受け持ちの職員を中心に情報の共有とケアの見直しに努めている。			
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族からの要望があれば一緒に検討し、それに応えられるよう柔軟な姿勢で取り組んでいる。			
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方で結成している自衛消防隊の協力や、運営推進会議への自治会長や民生委員のかたの参加を頂き、利用者の支援に努めている。			
30 11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からの、かかりつけ医へ継続して受診しており、希望があれば主治医とも相談し紹介状を頂いて、転院している。主治医や病院職員とも、良い関係を築いている。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。通院は職員が対応しているが、必要に応じて家族の協力も得ている。緊急時の対応もかかりつけ医と連携を取りながら、利用者が安心して適切な医療が受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとられた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤5名中4名と、非常勤5名中3名が看護資格を有しており、管理者（看護師）を中心に情報を共有し、医療現場と連携している。			
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、すぐに情報提供書を作成し、担当部署に提出している。また、電話等で連絡を取り合い、必要な情報をこまめに交換している。退院時の担当会議にも参加している。			
33 12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時はもちろん、体調の変化や重度化に際しては、その都度キーパーソンや関係機関と話し合い、方針を共有し支援に取り組んでいる。	契約時に重度化や終末期に伴う対応の指針を説明し、同意を得ている。状況変化に伴い本人や家族の意向を確認し、主治医や看護師を含む関係者が連携して支援している。看取りの事例もある。		
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時は、管理者及び看護資格を有する職員を中心に、初期対応を行っている。また、職員会議等においても救急対応について確認し合っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練の他、新入職員があつた場合などは、夜間を想定した避難誘導の訓練を行っている。	年2回消防署指導のもと、昼夜間想定の避難訓練を実施している。年1回は消防署の防災指導も受けている。地域の自衛消防隊との合同訓練も行うなど協力体制もできており、新人職員対象に夜間想定の避難誘導訓練も行っている。スプリンクラーや緊急通報装置も設置され、水や食料品も備蓄されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	代表者や管理者は、親しみのある地元の言葉を使用しつつ、プライドや誇りを損ねないよう、丁寧な言葉使いに努めるよう指導している。	個々の利用者の人格を尊重する言葉かけや対応に留意している。特にトイレ誘導などではさりげなく声かけを行い、利用者のプライドを損なわないように心がけている。	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	日常生活での、おしゃべりの中から思いをくみ取ったり、聴覚障害の方は、ジェスチャーでコミュニケーションし、表情や行動から変化を読み取っている。		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	理念にも掲げており、個々のペースに合わせながら、生活リズムや体調に支障のないような過ごし方を支援するよう努めている。		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	女性の利用者が多く、散髪や服の準備も、希望に合わせて支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入所時に好みの確認を行い対応している。利用者に合わせた食事の形態や、なるべく自力で摂取できるように工夫や介助を行っている。	利用者の嗜好に配慮した献立や食事形態を工夫している。誕生会には、好みのものを聞いて対応したり、季節の行事食など食事が楽しみなものになるよう配慮している。利用者の力量に応じて準備や後片づけを職員と一緒に行ったりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その日のリーダーが、食事量や水分量の把握を行い、記録に残している。体調不良時は、チェック表を活用し経口量の管理を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々のADLに合わせて、うがいや義歯洗浄の支援を行っている。経管栄養の方も、離床のたびに、口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンの情報を共有して、統一した支援に努めている。離床の可能な方は全て、日中のトイレ排泄を支援している。	トイレでの排泄を大切にして、オムツを減らす取り組みや排泄の自立を支援している。一人ひとりの排泄チェックを行い、オムツからパットへの変更で動きや表情が明るくなり、活性化するなどの改善例もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分・運動の支援を行うほか、チェック表を基に、排便回数や緩下剤の使用状況などの管理を行っている。			
45 17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわず、個々に応じた入浴の支援している	日課や入浴の計画表はあるが、それだけにこだわらず、体調や希望・汚染状況に合わせて、柔軟に支援している。	入浴は基本的に週3回であるが、希望や体調に合わせて柔軟に対応している。入浴を拒む利用者には、職員間で連携し、入浴剤を使ったりシャワー浴や清拭・足浴など、柔軟に対応し清潔維持に努めている。		
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体力や希望に合わせて、昼夜のリズムが乱れないよう配慮しながら、支援している。冬場は、室温や湿度など、快適な環境にも努めている。			
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助の手順や注意点を示し、誤薬防止に努めている。看護資格を有する職員が、必要に合わせて、本人や介護職員に説明している。			
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	女性の利用者が多く、家事や花壇の手入れなど、個々が可能な作業で協力し合って、喜びや労をねぎらっている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日光浴や散歩の他、墓参りの同行や、ドライブの支援を行い、気分転換に努めている。花見やそうめん流しに出かけたり、マラソンの応援にも参加している。	日常的には散歩や買い物・ドライブに出かけている。計画を立てて、花見やソーメン流しに出かけたり、家族の協力で外食や墓参にも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、家族管理の方々のみであるが、希望があれば金銭台帳を作り本人管理することも可能である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	年賀状を書いたり、希望を聞いて電話を取り次ぐ支援も行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温や湿度の確認と、換気などの支援に努めている。また、季節の花を摘んで来たり、飾り物と一緒に作成したりして、季節感を出している。	共用空間は天井が高く換気や採光に配慮し、掃除が行き届き清潔である。騒音もなく空調管理も行き届いている。行事の写真や作品などを飾り、季節感を探り入れている。畳コーナーもあり居心地よく過ごせるような工夫がされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	車いすの方が多いため、個別で散歩したり、気の合うもの同士の席の配慮を行っている。面会も、自室で家族のみでゆっくり出来るように、支援している。		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	家からの持ち込みは、テレビや仏壇など本人・家族の希望に添えるよう、配置を工夫しながら支援している。	居室はベッドとタンスが備え付けて、居室から庭へ出るスロープが設置してある。寝具やテレビ・仏壇・椅子など、使い慣れた物が持ち込まれ、安心して生活できるように配慮されている。	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	必要な場所には、手すりや照明・表札など個々の自立度に合わせて、工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	3 利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1 毎日ある
		<input type="radio"/>	2 数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	3 たまにある
		<input type="radio"/>	4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4 ほとんどない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4 ほとんどない

			1 ほぼ全ての利用者が
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目 : 49)	<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目 : 30, 31)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目 : 28)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目 : 9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

			1 ほぼ毎日のように
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目 : 9, 10, 19)	<input type="radio"/>	2 数日に 1 回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目 : 4)		1 大いに増えている
		<input type="radio"/>	2 少しづつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目 : 11, 12)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない